

宮城県の木材需給動向について



令和3年8月26日
宮城県水産林政部林業振興課

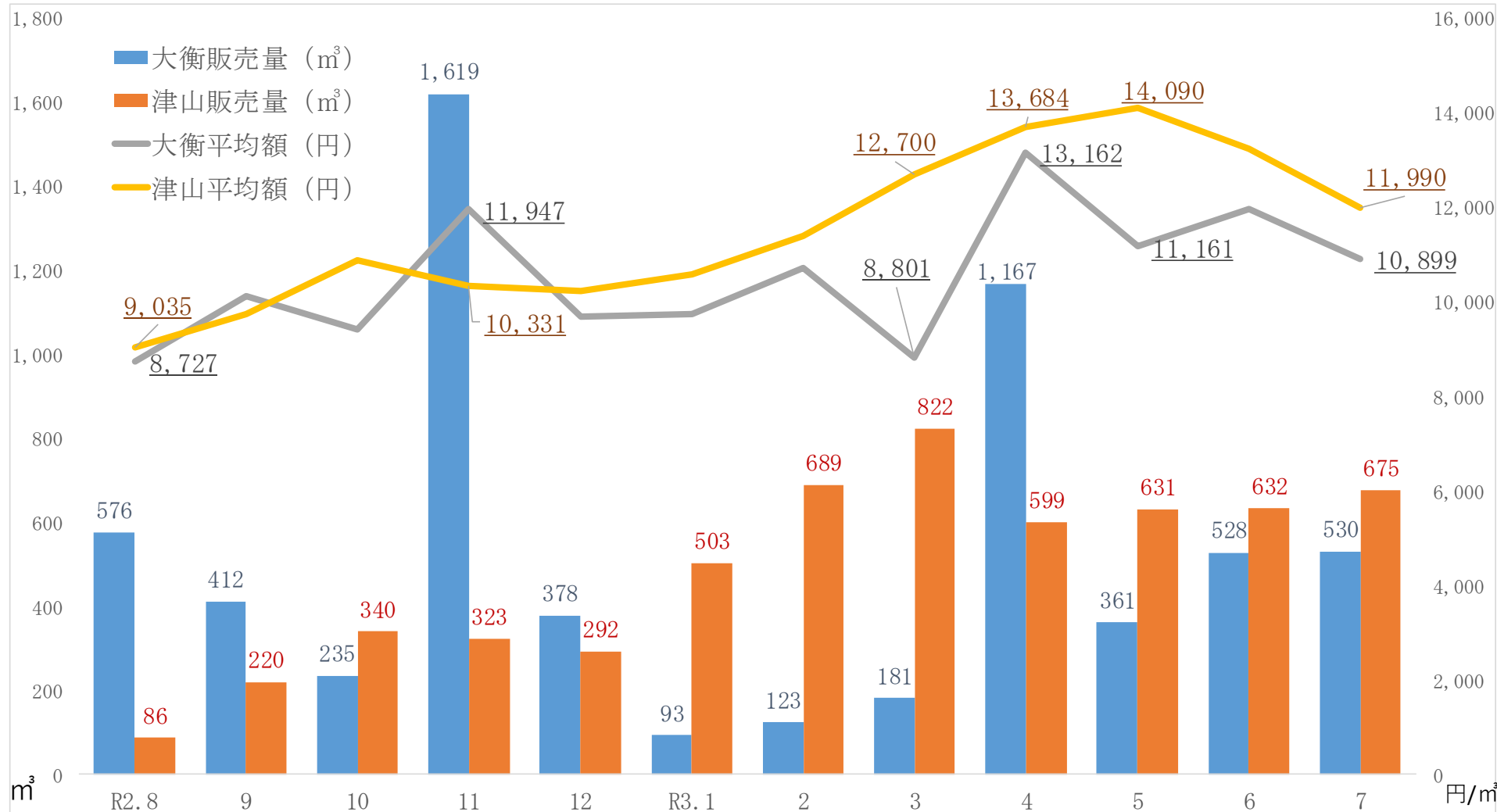


目次

- 1 価格の動向
 - (1) 原木市場・共販所
 - (2) スギ中丸太
 - (3) 合板用素材価格
 - (4) 製品価格の推移・動向（全国，宮城県）
- 2 原木の入荷，製品の生産等
 - (1) 製材工場の推移
 - (2) 合板工場の推移
 - (3) プレカット稼働率（東北・全国）
- 3 県内の新設住宅着工の推移
 - (1) 構法別
 - (2) 利用関係別
- 4 参考資料（林野庁）
 - (1) 輸入木材の供給不安による国内への影響
 - (2) 需給情報連絡協議会の開催
 - (3) 輸入木材等の需給変動への対応

1 価格の動向 (1) 原木市場・共販所 (宮城県 大衡, 津山)

- ・令和3年7月の大衡, 津山の共販所の価格は夏場であるため値下がり傾向にあるが, 例年比では高い。
- ・令和3年1~7月の販売量は, 昨年同時期と比較して大衡で109%, 津山で342%と高い傾向となった。



同時期における価格の比較 (円/m³)

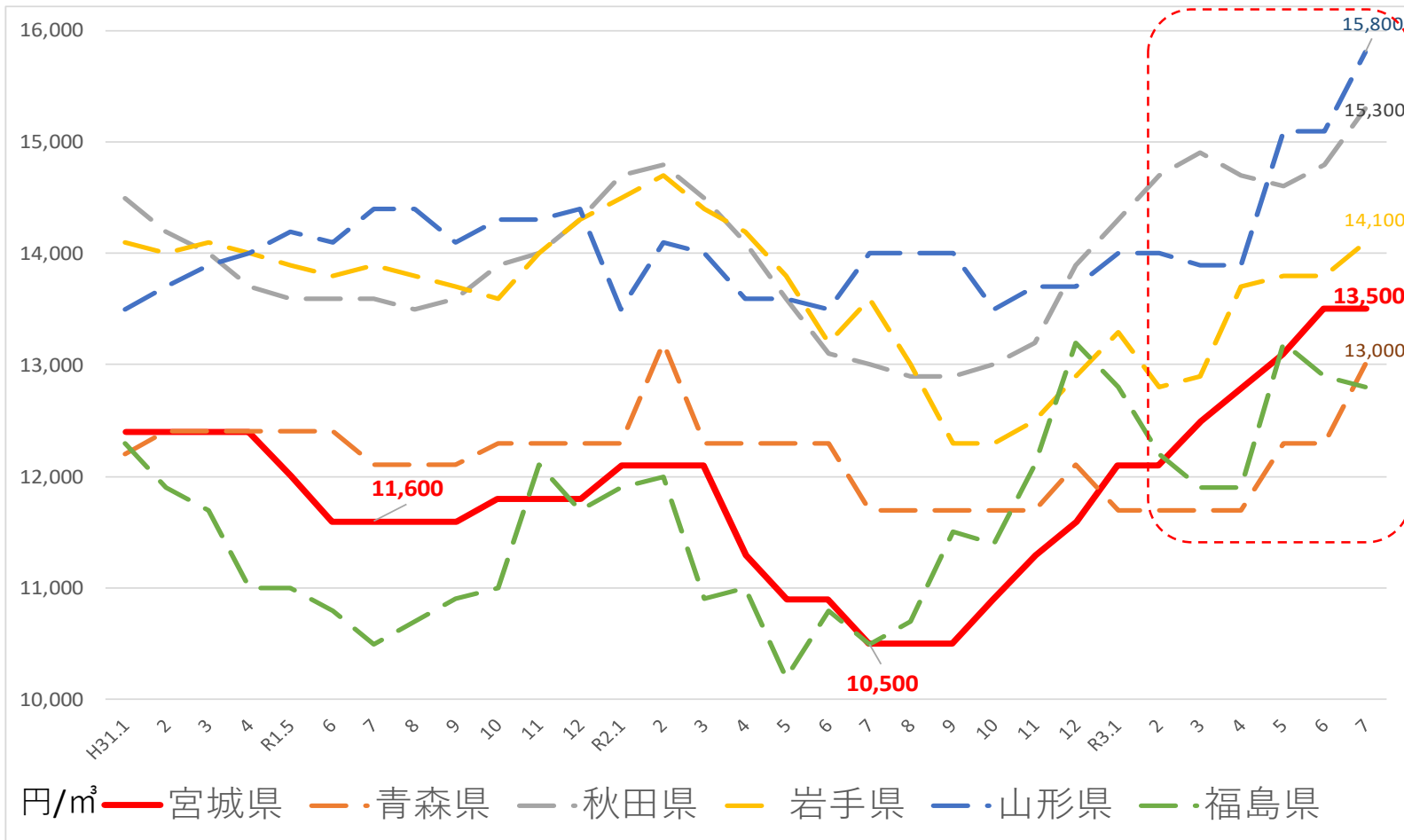
共販名	R1.7	R2.7	R3.7
大衡総合センター	10,092	8,116	10,899
津山木材センター	9,401	8,966	11,990

同時期における価格の比較 (%)

共販名	R3.7/R1.7	R3.4/R2.7
大衡総合センター	108%	134%
津山木材センター	128%	134%

(2) スギ中丸太 径24～28cm 長3.65～4.0m (東北地方)

- ・例年と比較して価格は上昇傾向。特に宮城県では令和2年10月から増加が顕著であり、昨年比の29%伸びている。
- ・秋田県、岩手県、山形県では令和2年11月頃から高価格帯を維持しており、特に山形県でその傾向が顕著である。
- ・東北6県の平均価格は前々年比111%、前年比115%となっている。



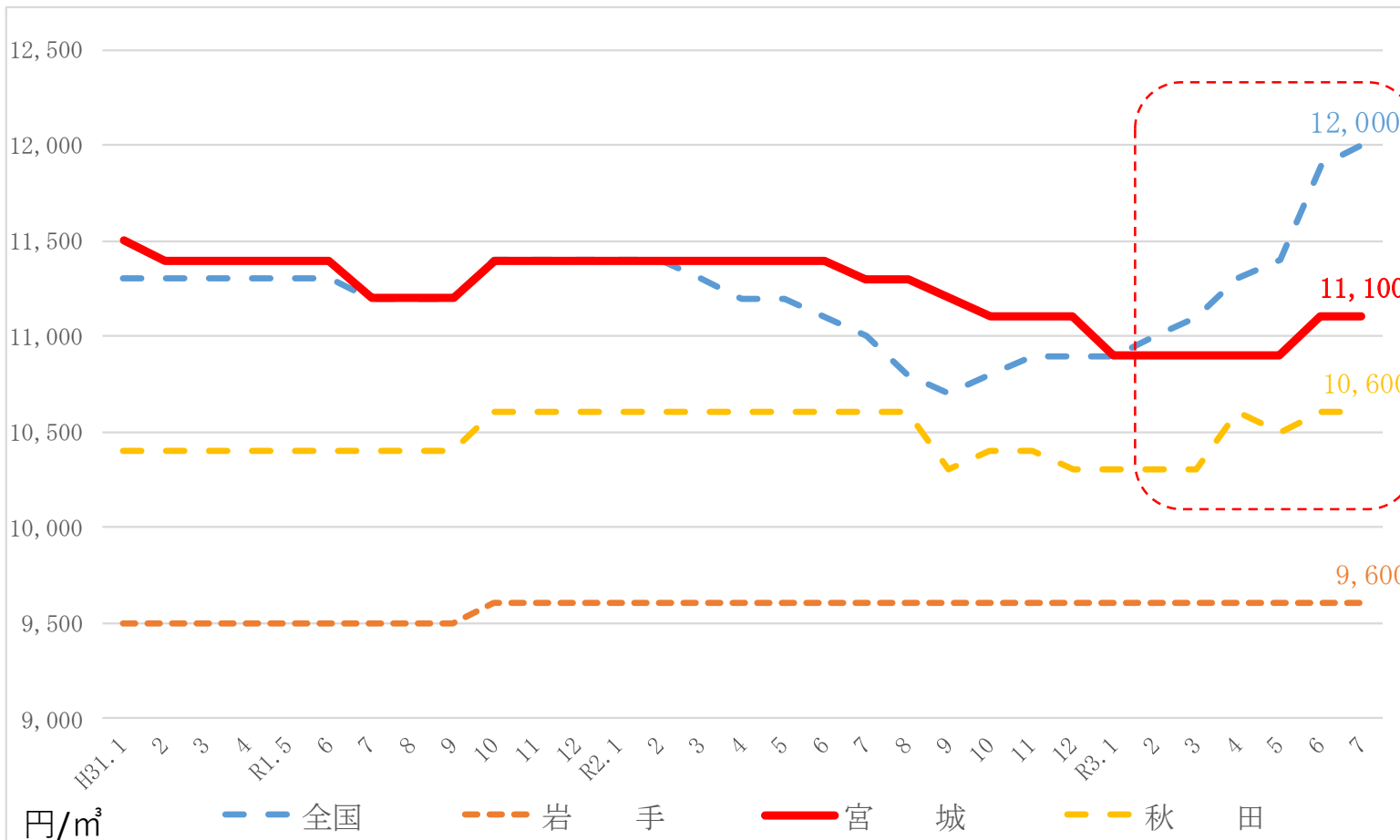
東北6県における価格の比較 (円/m³)

	R1.7	R2.7	R3.7	R3/R1	R3/R2
宮城県	11,600	10,500	13,500	116%	129%
青森県	12,100	11,700	13,000	107%	111%
秋田県	13,600	13,000	15,300	113%	118%
岩手県	13,900	13,600	14,100	101%	104%
山形県	14,400	14,000	15,800	110%	113%
福島県	10,500	10,500	12,800	122%	122%
平均	12,683	12,217	14,083	111%	115%

出典：農林水産省 木材価格統計調査

(3) 合板用素材価格スギ径18cm上 (全国, 宮城県, 秋田県, 岩手県)

- ・令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、宮城県で値下がり傾向が見られたが、令和3年度に入っ
ち直してきている。
- ・その他の地方では例年と比較して値上がり傾向が見られる。



価格の比較 (円/m³)

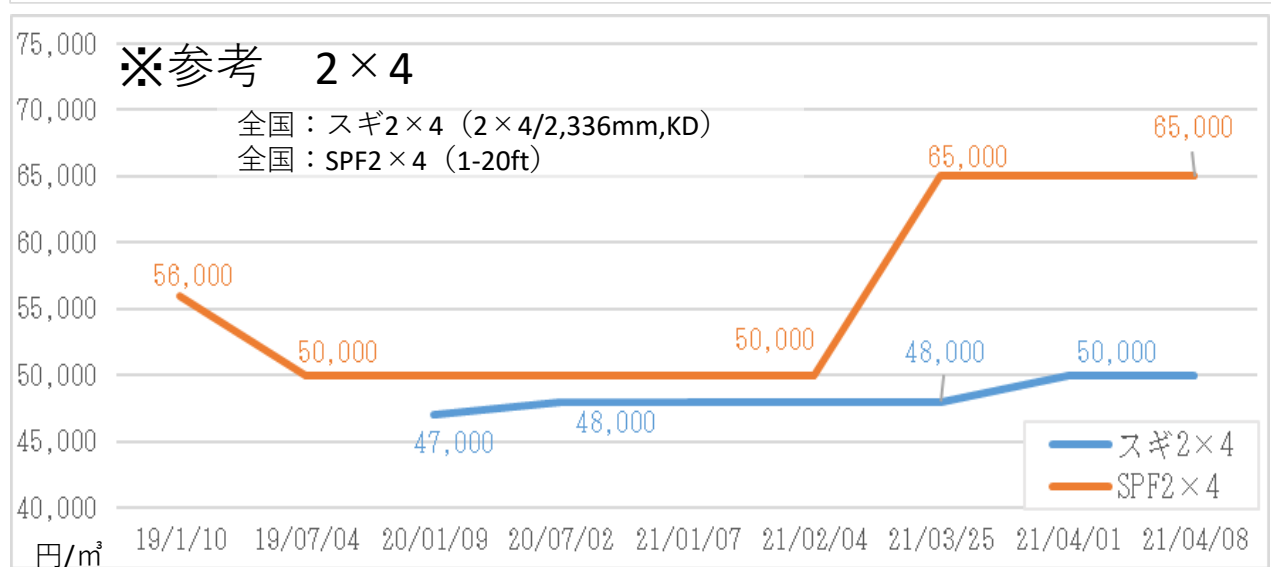
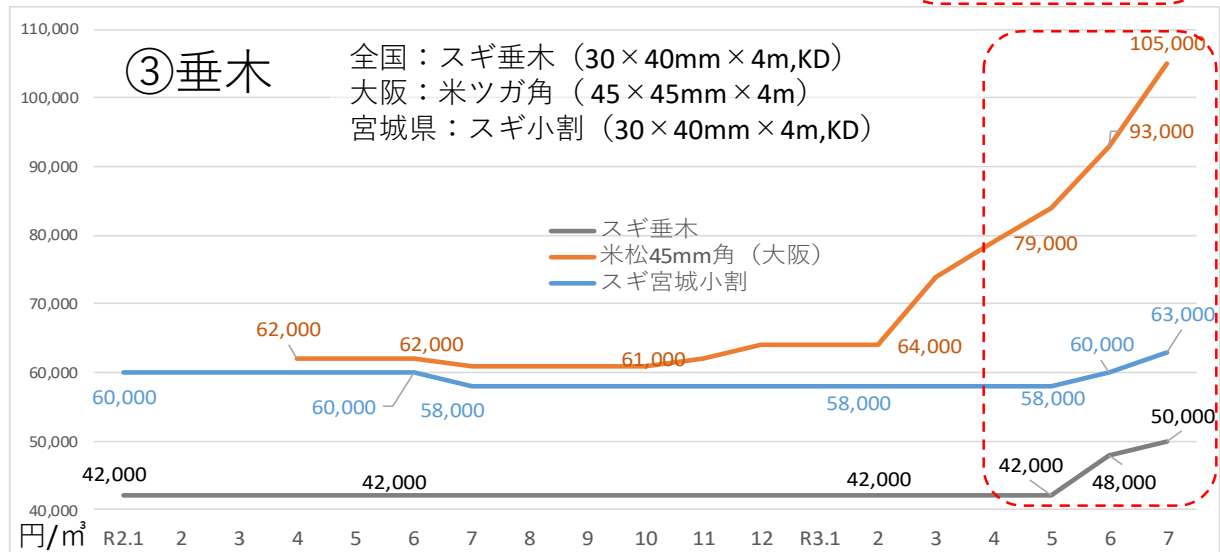
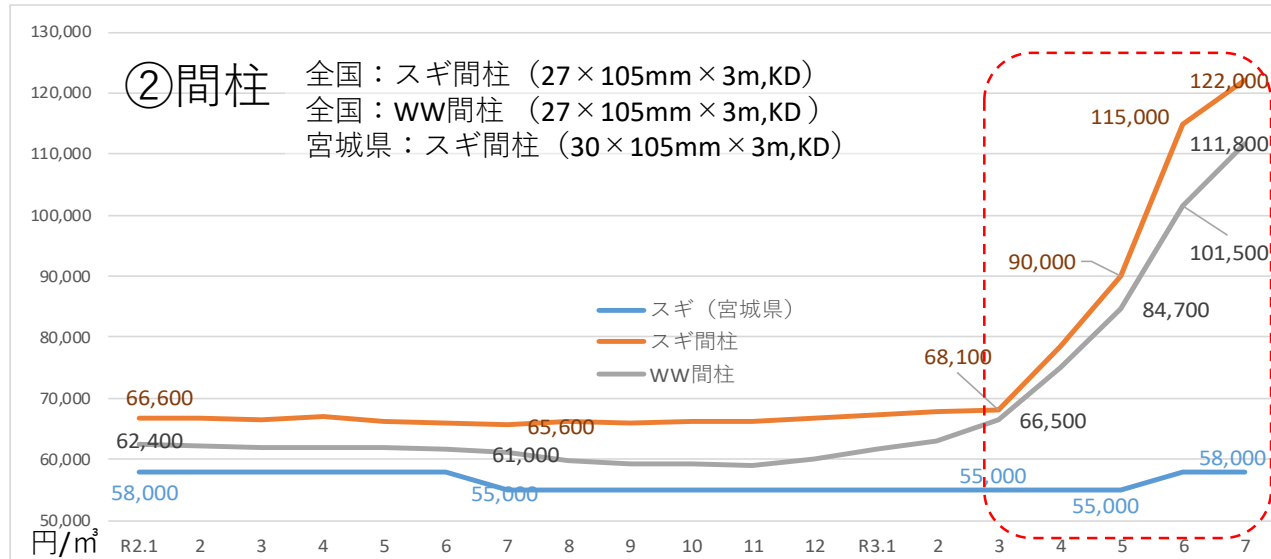
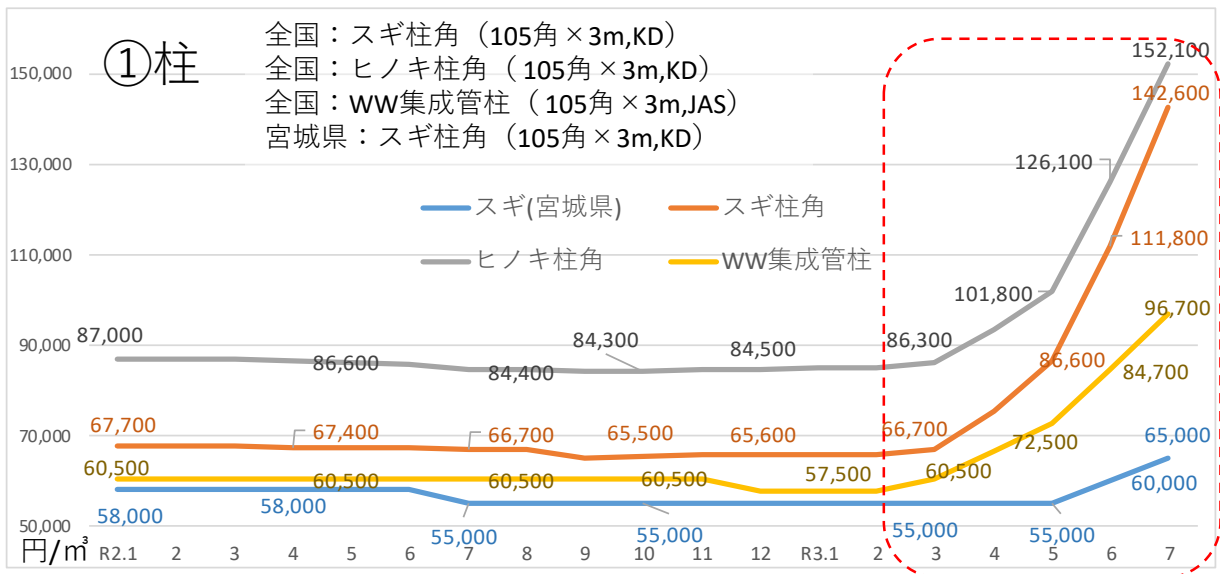
	R1.7	R2.7	R3.7	R3/R1	R3/R2
宮城県	11,200	11,300	11,100	99%	99%
岩手県	9,500	9,600	9,600	101%	101%
秋田県	10,400	10,600	10,600	102%	102%
3県平均	10,367	10,500	10,433	101%	101%
全国	11,200	11,000	12,000	107%	107%

出典：農林水産省 木材価格統計調査

(4) 製品価格の推移・動向 (全国, 宮城県)

- ・全国で柱, 間柱, 垂木の価格は令和2年度末から高騰しており, 令和3年7月現在でも値上げ傾向である。
- ・宮城県の価格は令和3年6月からが値上げが継続されている。
- ・(参考) 2×4 SPF材は令和2年度から緩やかな上昇傾向にあったが, 令和3年度に入り急騰し, 価格が約2.65倍に高騰している (木材情報)。

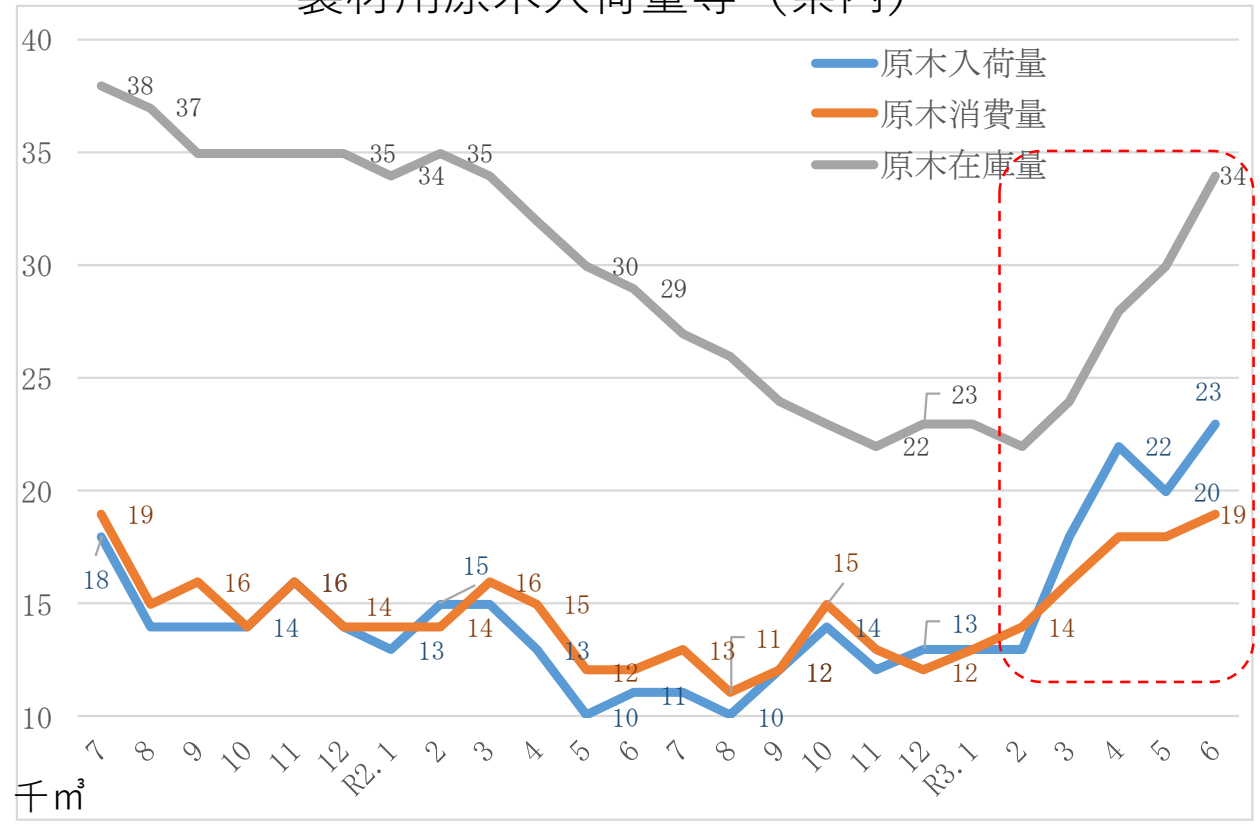
R2.7:49,000円/m³⇒R3.7:130,000円/m³



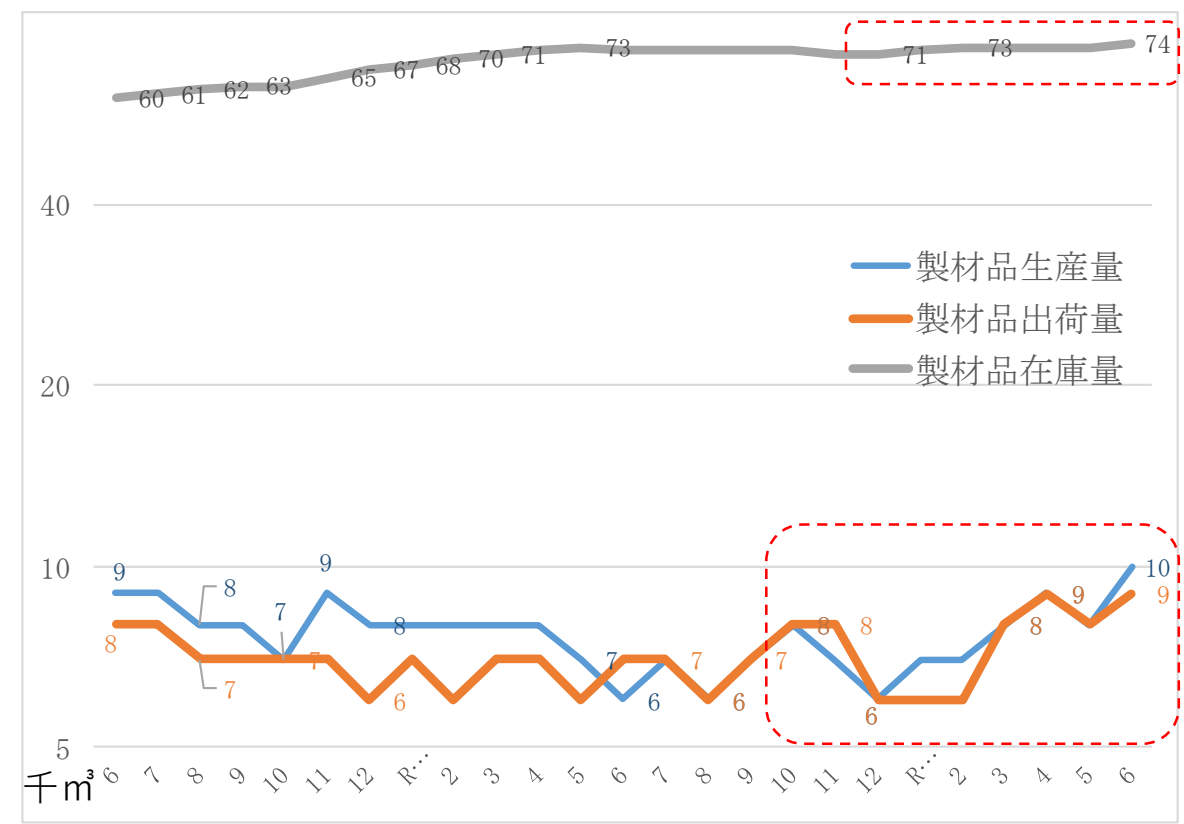
2 原木の入荷，製品の生産等 (1) 製材工場の推移 (宮城県)

- ・原木の在庫量についてR2年度は新型コロナウイルスの影響により減少傾向に推移していたが，R3.3から入荷量を増やし対応している。
- ・原木消費量はR3.1から増加傾向に推移しており，6月現在まで増加傾向である。
- ・製品の生産量がR2.12から増加傾向に推移しており，出荷量もR3.3から増加している。在庫量も緩やかに増加している。

製材用原木入荷量等 (県内)

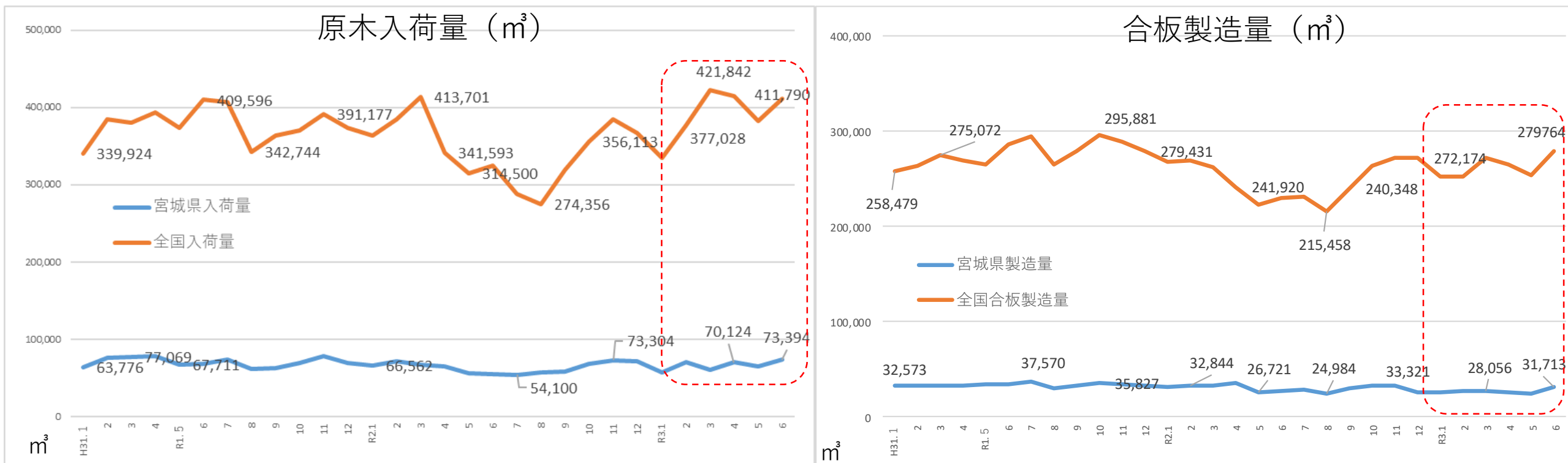


製品生産量等 (県内)



(2) 合板工場の推移 (全国, 宮城県)

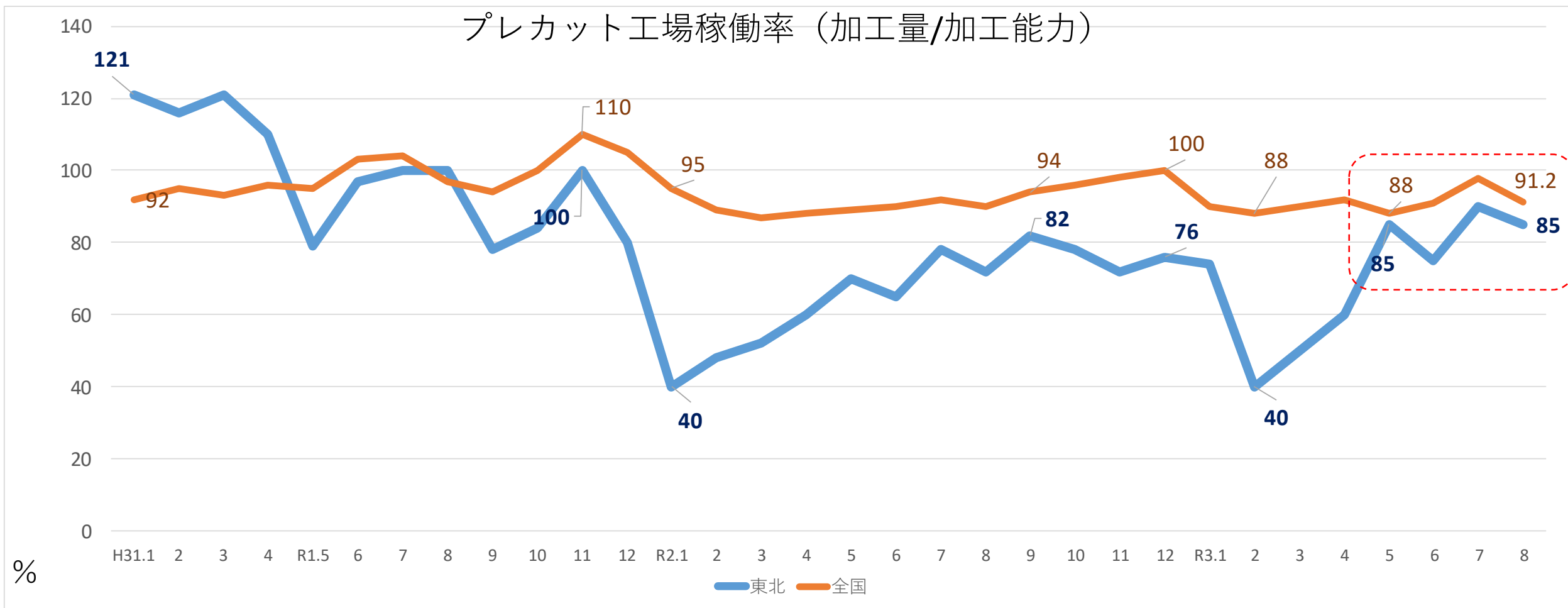
- ・全国の原木入荷量は令和2年度上半期で減少傾向であったが、下半期から上昇傾向に推移している。令和3年に入り、更に増加している。宮城県も全国と概ね同じ動きである。
- ・合板製造量は令和2年度上半期で減少傾向であったが、下半期から増加傾向に推移している。令和3年度に入り、更に増加傾向で推移している。宮城県も全国と概ね同じ動きである。



(3) プレカット稼働率 (全国, 東北)






・東北地方のプレカット稼働率は高い水準で推移しており、平均を比較すると一昨年比で大きく減少、昨年同期比で微増である。

・令和2年全体を通じて、東北地区の落ち込みが顕著であったが、令和3年2月を底に緩やかな上昇傾向が見られ、平均を比較すると一昨年比で減少、昨年比で増加となっている。

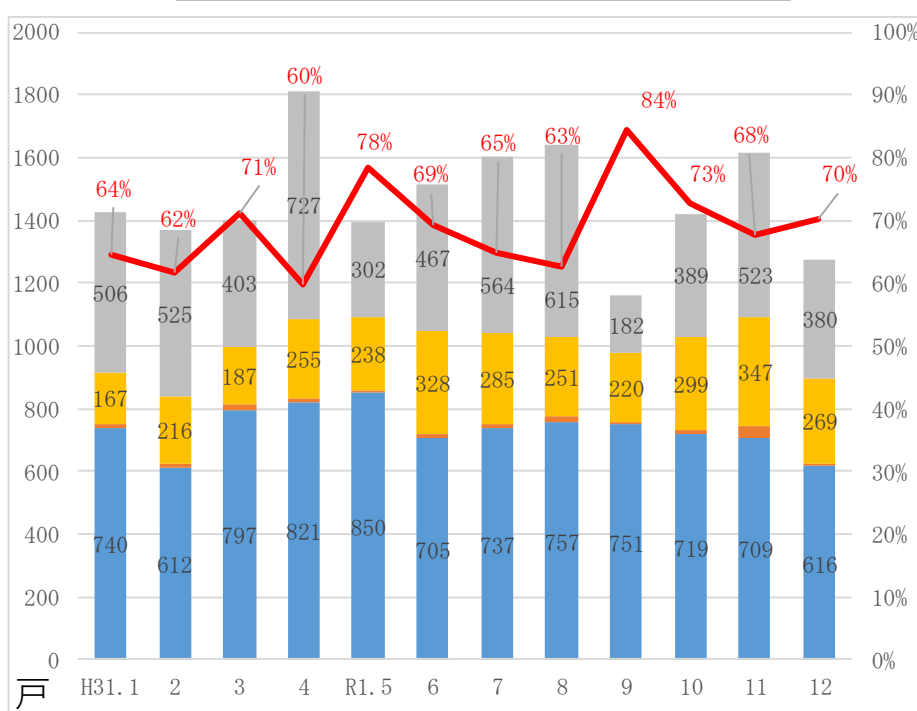


3 県内の新設住宅着工の推移 (1) 構造別 (宮城県)

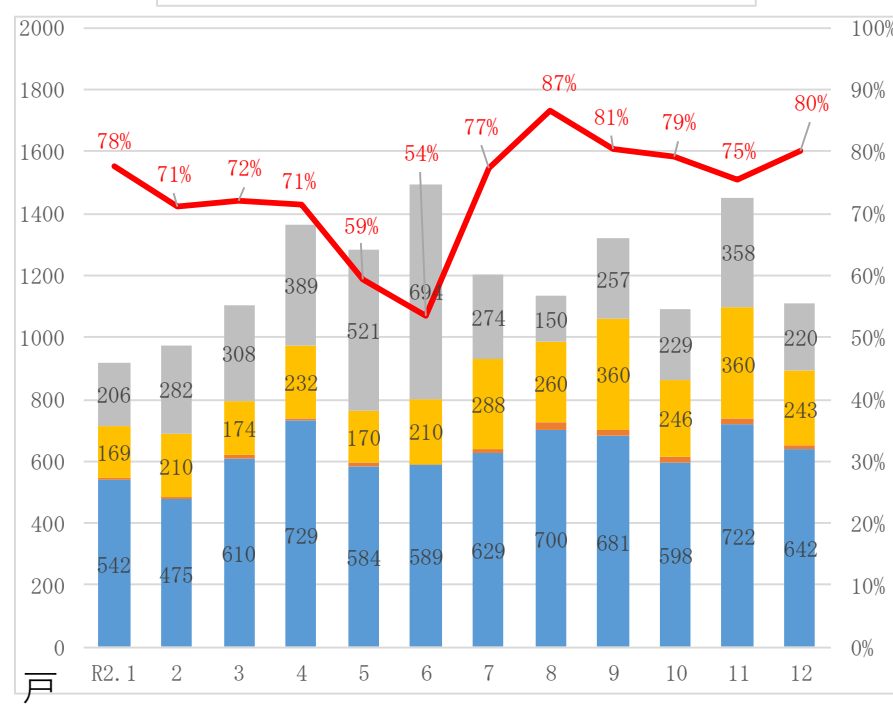
- ・全国の新設住宅着工統計は令和3年度6月までで**412,010棟**で、前年と比較してやや多い。(前年同期比**103.5%**)
- ・宮城県の令和3年1~6月の新設住宅着工戸数は**7,082棟**で、前年と同程度、一昨年と比較して少ない。(前年比**99%**、前々年比**79%**)

木造軸組	
木造プレハブ	
木造2×4	
非木造	
木造率	

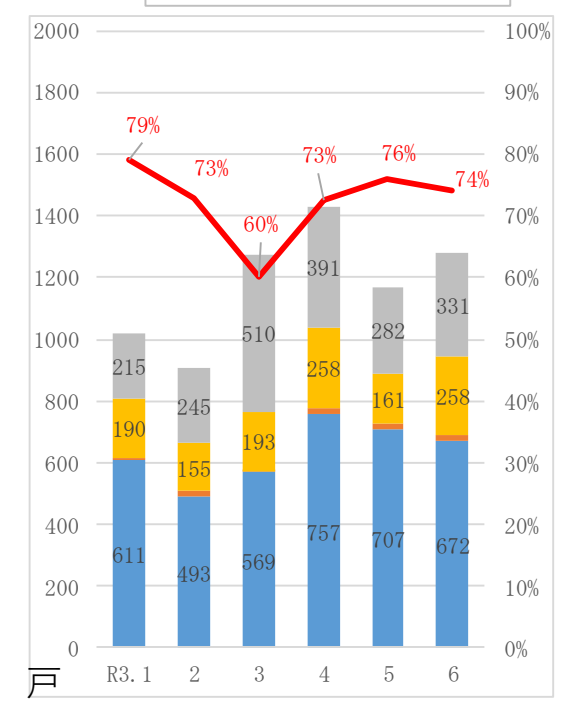
令和元年次
年：17,621棟 (木造率70%)
1~6月：8,911棟 (木造率67%)



令和2年次
年：14,451棟 (木造率73%)
1~6月：7,159棟 (木造率73%)



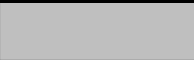


令和3年次
1~6月：7,082棟
(木造率72%)

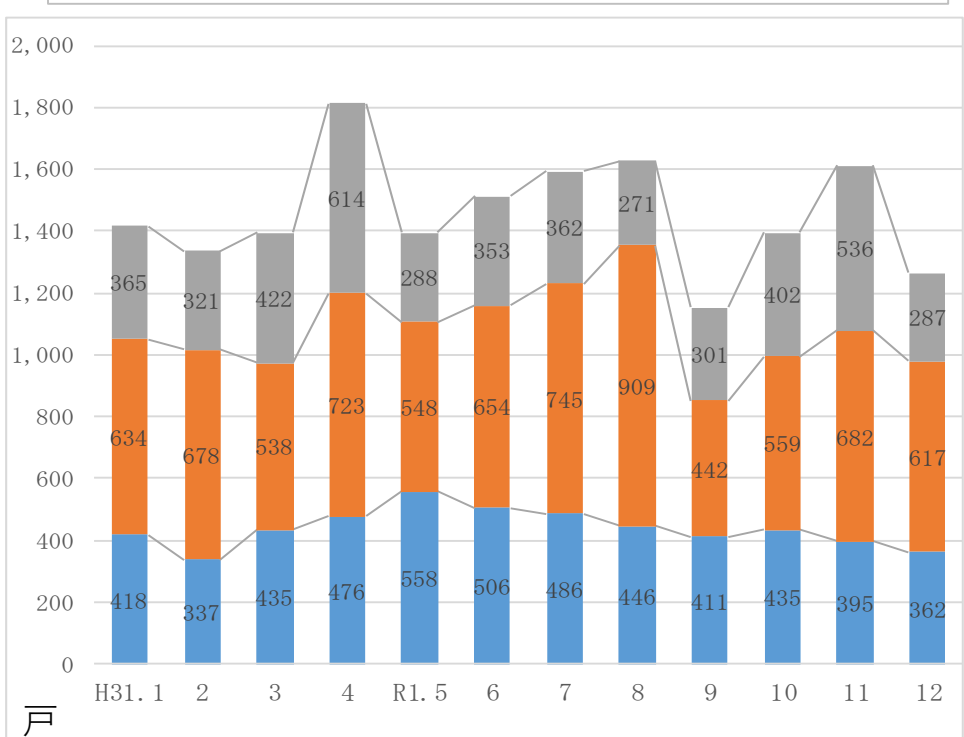


(2) 利用別（宮城県）

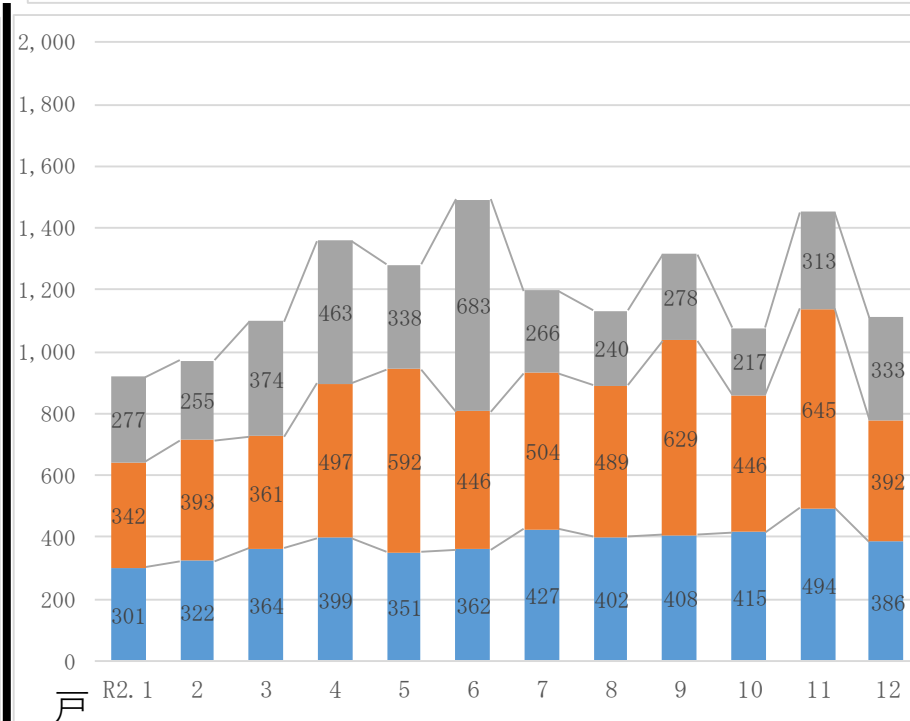
- ・令和2年の木造戸数は前年比で各利用で10～20%減少しているが、持家の木造率は高い。
- ・令和3年1～6月の木造率は、持家で92%と最も高く、貸家は低調である。

持家	
貸家	
分譲住宅	

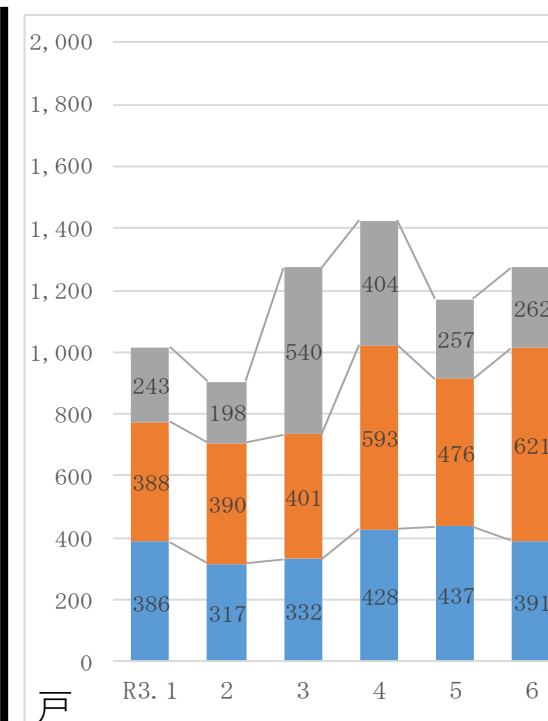
令和元年次
木造率 持家：89%，貸家：55%，分譲：74%



令和2年次
木造率 持家：92%，貸家：60%，分譲：74%



令和3年次 木造率
持家：92%，貸家：52%，分譲：85%

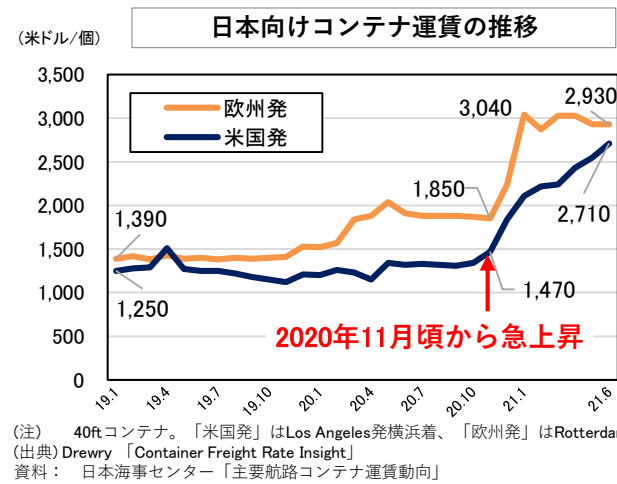
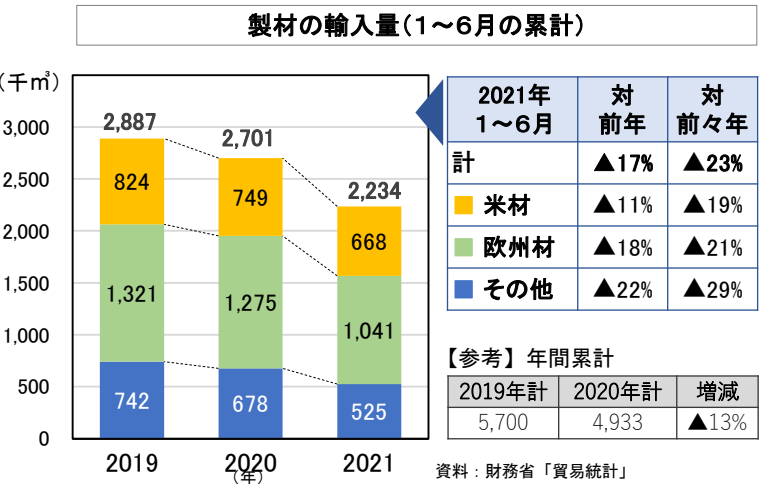


4. 参考資料 (林野庁) (1) 輸入木材の供給不安による国内への影響

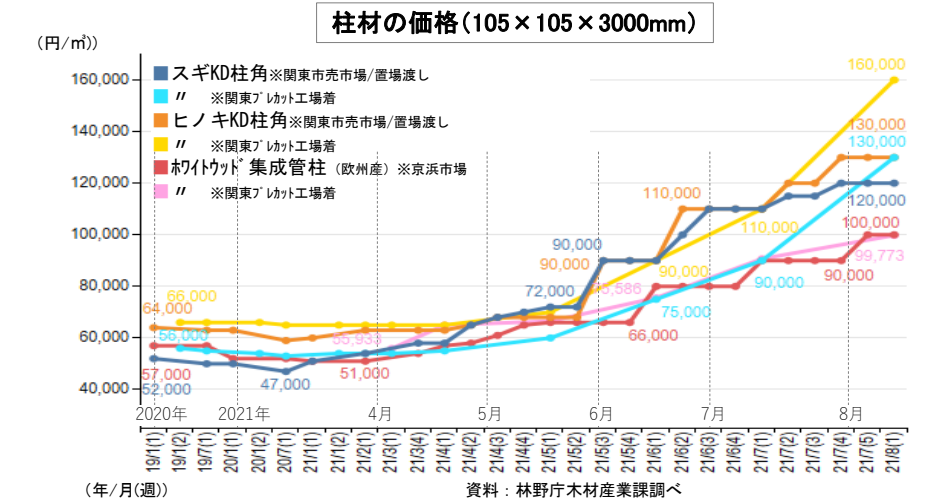
- 世界的な木材需要の高まりやコンテナ不足により、国内への製材品等の輸入量が減少し、価格が高騰。国産材への代替需要が強まったため、国内工場は稼働率を上げて対応。
- 中小工務店を中心とした木造住宅供給事業者からは、木材の入手難と価格高騰に対して不安の声。

【国内】輸入量の減少・価格上昇

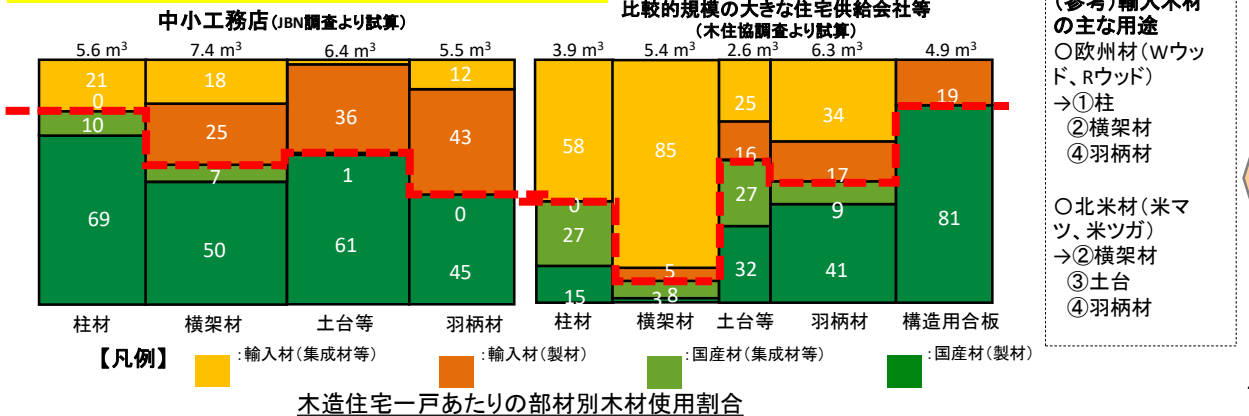
輸入量減・・・米国の住宅着工の回復等による世界的な木材需要の高まりや、コンテナ不足により、欧州、北米の現地サプライヤーは、米国向けの供給を増やすなどにより、日本向けの供給量は減少。



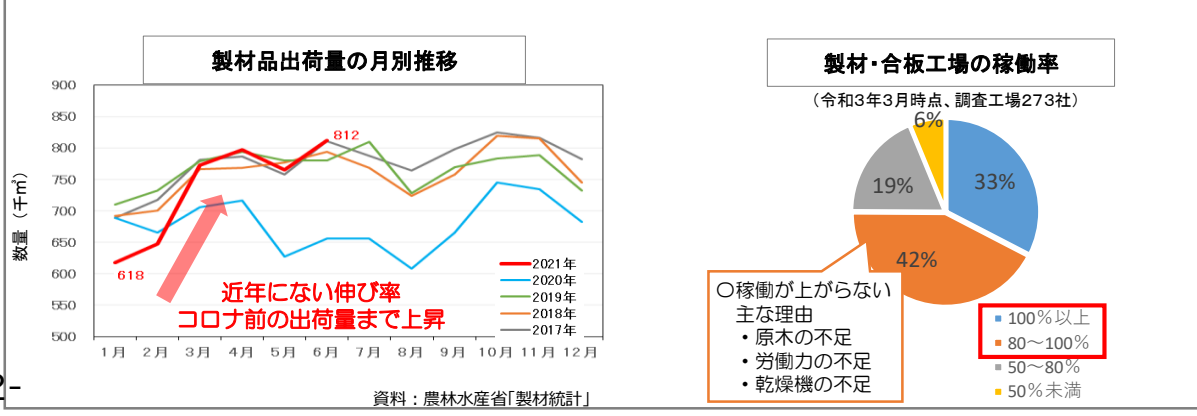
価格上昇・・・輸入コストの上昇により、輸入木材の価格が高騰。代替需要が発生したスギ柱材などの国産材製品の価格も急騰



中小工務店を中心とした木造住宅供給事業者から、木材の入手難と価格高騰に対しての不安の声。



国内製材工場・・・輸入木材からの代替需要に対応し、国内製材工場はコロナ禍での需要減退により落ちていた稼働率を上げて出荷量は増加。



(2) 需給情報連絡協議会の開催

- 国産材の安定供給体制の構築に向けて、川上から川下まで幅広く様々な関係者が木材等の需給情報の収集・共有を図るため、中央、全国7地区及び都道府県において需給情報連絡協議会（以下「協議会」）を開催。

協議会の構成及び令和3年度の取組

○中央協議会

構成：学識経験者、中央団体等から構成
議題：木材輸入の状況について
木材需給の動向（全国）について
開催状況（令和3年度）：4月14日、9月10日

○地区別協議会（全国7地区）

構成：学識経験者、地区における主要な事業者、都道府県等
議題：需給情報（地区）等
開催状況（令和3年度）：第1回

九州地区	5月27日
東北地区	5月28日
近畿中国地区	6月7日
関東地区	6月17日
中部地区	6月17日
四国地区	6月29日
北海道地区	7月28日

第2回 9月上旬以降順次実施予定

○支部別協議会（都道府県単位）

構成：（必要に応じ設置）都道府県、関係団体等
議題：需給情報（都道府県）等

○地区別協議会構成員

- ・森林組合
- ・素材生産業者
- ・原木市場
- ・苗木生産者
- ・木材加工業者
- ・製紙事業者
- ・木質バイオマス発電事業者
- ・学識経験者
- ・森林管理局
- ・工務店



(3) 輸入木材等の需給変動への対応

緊急・短期の対応

○ 木材需給の把握と正確な情報共有

- ・川上(林業・木材産業)～川下(建築業界)の需給動向の把握。
- ・関係者間での需給動向の正確な情報共有。
- ・過剰在庫の抑制について関係者へ協力依頼。
- ・地区別協議会を開催し、地区別の需給にも対応。



戦略的(中期的)対応

○ ハウスメーカー等からの国産材安定需要獲得

- ・サプライチェーン・マネジメント(SCM)の構築による需給ギャップ解消・マッチングの円滑化

○ 国産材製品の供給量増大、競争力強化

- ・製材、集成材などの安定供給に向けた加工流通施設の整備
- ・横架材や羽柄材等への国産材利用拡大
- ・品質性能の確かな木材製品供給拡大に向けたJAS規格の合理化 等

○ 原木の供給量増大

- ・原木の生産流通ロット拡大等に向けた林業経営体の育成、ICTを活用した生産流通管理



【新たな森林・林業基本計画に掲げる国産材供給量目標】

○林産物の供給・利用: 国産材3,100万 m^3 ⇒4,200万 m^3